

策定年月	令和7年5月
見直し年月	令和〇年〇月

大豆国産化プラン

産地名：〇〇市

（作成主体：〇〇市農業再生協議会）

1. 大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

【大豆生産の現状と課題】

本市の大豆生産については、水田転作の推進作物として作付けが奨励され集落営農組織等による団地化でブロックローテーションを活用した水田転作の中心作物として定着してきたが、近年、播種後に大雨・台風等による湿害被害、生育期には気候変動による病害虫被害が拡大する傾向にあり、収量が低下し安定的な生産ができない状況である。

アッパーローター導入により排水性の高い湿害対策ができ生産性を向上させ、ドローン導入により適宜防除ができ質の良い大豆生産に結び付く。麦の刈取後に大豆播種を行うがスライドモア導入で、作業工程の遅れがなくなり適宜な時期の整地、播種をすることで、生産向上につながる。

【課題解決に向けた取組方針】

極多収品種「そらみのり」を導入し収量増加を実現するため、アッパーローター導入により排水性の高い湿害対策ができ生産性を向上させる。ドローンによる防除で作業効率が上がり質の良い大豆生産に結び付く。麦の刈取後に大豆播種を行うがスライドモア導入で、適宜な時期の整地ができ、適宜なときに播種もすることで、生産性向上につながる。また、生産圃場の団地化を図り作業効率を向上させることにより生産面積の拡大を目指す。

県、JA、市等関係機関の栽培技術担当者の連携が重要となっている。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

大豆については、管内農協を通して出荷している。
6年度は「フクユタカ」と「フクユタカA1」を出荷していたが、7年度からは「そらみのり」の栽培実証を県、JA、市等の関係機関と連携して取り組み生産性を向上させる。

現状(令和6年度) ※フクユタカ・フクユタカA1

・作付面積 87.1ha

・生産量 71.4t 81.9kg/10a

目標(令和9年度) ※そらみのり・フクユタカ・フクユタカA1

・作付面積 92ha ・実需者 管内農業協同組合から鹿児島県経済連農業協同組合連合会に出荷し全国農業協同組合連合会へ出荷

・生産量 116.9t 127kg/10a

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

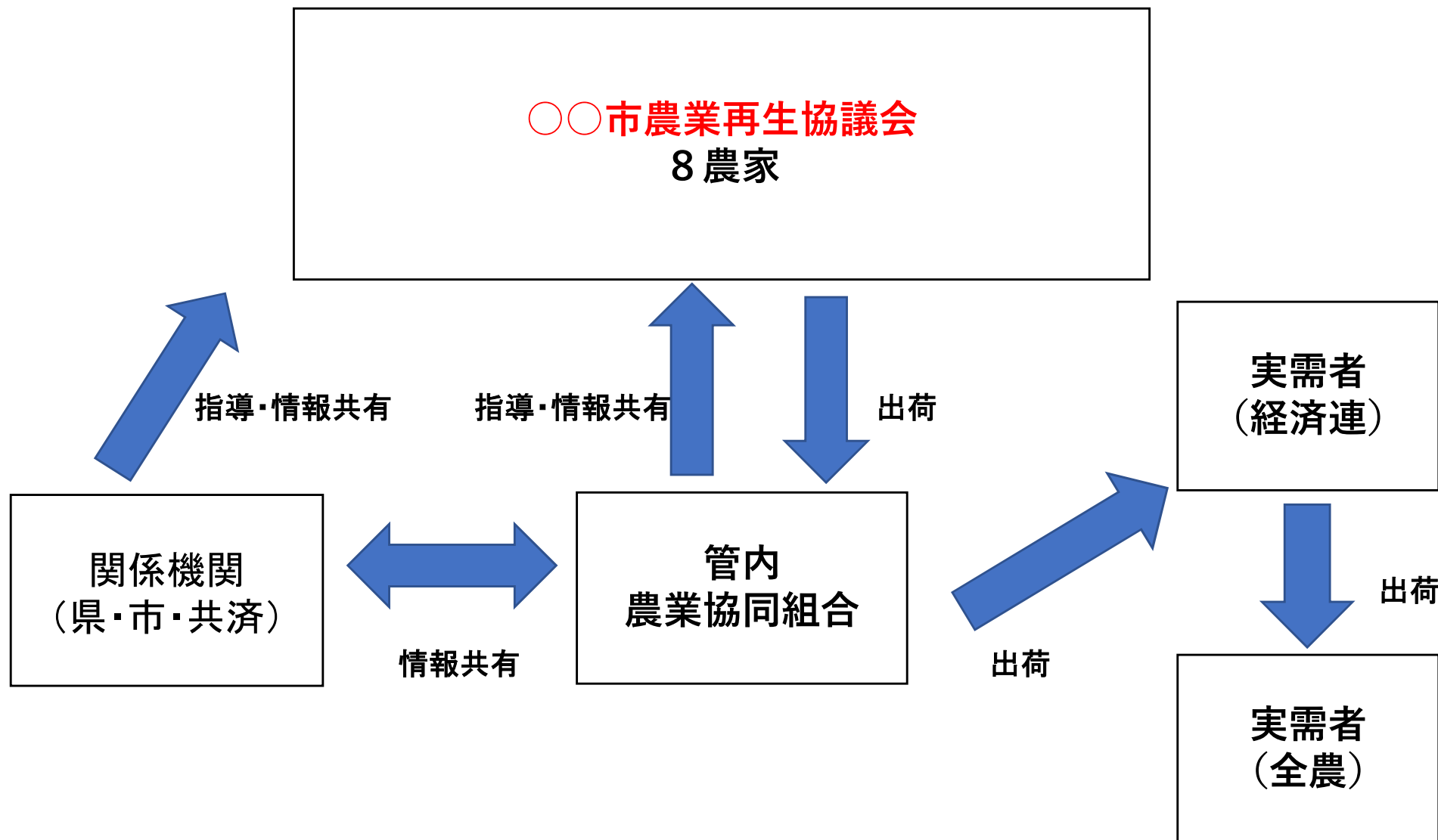
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

生産者は安定した「質」と「量」の生産で供給体制の確立を目指し、関係機関は栽培技術の指導、また情報等を生産者と共有して収量の増加を目指す。



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。